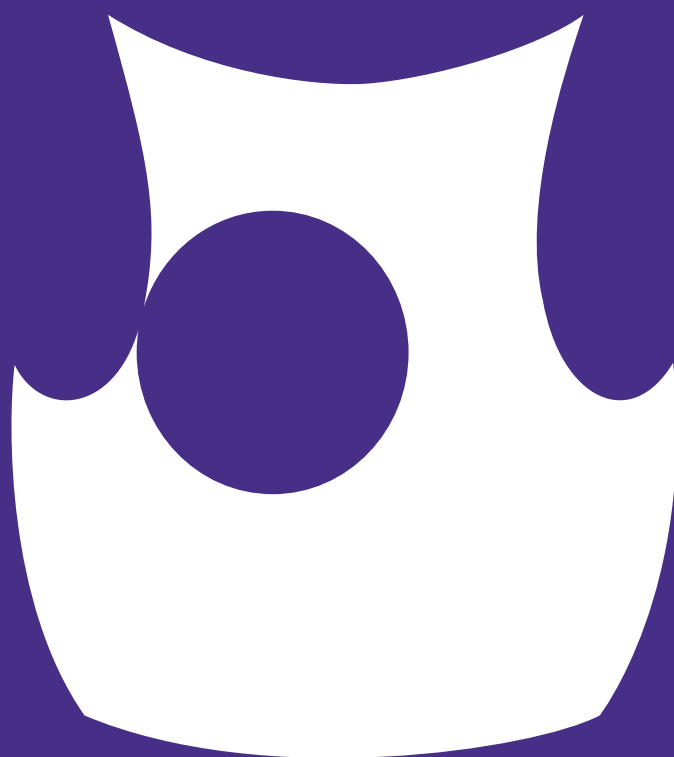


剣界

令和3年度



青森県剣道連盟

目次

青森県剣道連盟会長挨拶	増田 知幸	1
青森市臨時段位審査会	・	2
青森県剣道連盟定例総会（書面会議）	・	2
青森中学校春季剣道選手権大会	・	3
第72回青森中学校体育大会	・	4
高体連剣道競技専門部	木村 秀樹	4
青森県高等学校春季選手権大会	・	5
青森県高等学校総合体育大会	・	6
全国高等学校総合体育大会	・	6
ミニ国体剣道競技	・	7
女子部	二ツ森 礼子	7
玄妙杯・青麗杯	・	9
青森県春季剣道選手権大会	・	10
総務部	・	12
講習部	・	12
審査部	・	13
青森県剣道道場連盟	・	14
少年剣道指導部	・	17
第45回七戸防犯少年剣道大会	・	18
第60回上十三地方青少年剣道大会	・	19
居合道部	角田 正美	19
杖道部	・	21



青の煌めきあおもり国スポ

2026 翔けろ未来へ縄文の風に乗って
第80回国民スポーツ大会

あおもり国スポホームページ、SNSはこちら

○ホームページ

<https://aamorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/>

【ダンスレッスン映像公開ページ】

<https://aamorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/topics/3978/>

○YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCSTmDEWLtgjb_DDtRiEdI5Q

○Facebook

<https://www.facebook.com/aamorikokuspo>

○Instagram

<https://www.instagram.com/aamorikokuspo>

会長 挨拶

増田 知幸



令和2年度から引き続き「新型コロナウイルス」の感染拡大による影響で、オリンピック競技は無観客での競技会など余儀なくされました。更に令和4年1月現在では「オミクロン株」大流行の端緒が声高に懸念されております。

皆様におかれましては「三密を避ける」など細心の注意を払って、更に気を引き締めて日常生活を過ごすことが続く状況です。これ以上悲惨な状況にならぬように祈るとともに、普通の日々が戻り剣道を十分できる日々が早く訪れることを願うばかりです。

令和3年度当剣道連盟では、全国大会予選会及び段位審査会等を可能な限り実施致しましたが、幸い参加者・関係者の皆様のご理解を頂いて、コロナ患者の発生を見ることなく終了できたことを心から感謝申し上げます。

さて、令和8（'26）年2巡目青森国民スポーツ大会の選手強化を図るため、当連盟では新設した組織で藤田幹彦理事長を先頭に活動を開始致しました。

まずは青森県競技力向上対策本部が策定した計画により、各競技ともスーパバイザーの配置・強化選手の指定を示されたので、県剣連では日本トップレベルの指導者として名高い亀井徹範士（前全剣連選手強化委員長、熊本県）及び山崎尚教士（現全剣連試合審判委員、愛知県）の2名をお願いすることにしました。3年度はすでにコーチスキルアップ事業を始め所定の事業を終了する予定です。これは、県費で必要経費が支出されますので今後も有効に活用したいと思えます。

昨年末12月17日・18日、七戸武道館で中学男子約40名、女子約30名が参加した強化練習会を拝見しましたが、亀井・山崎両先生の指導内容が中学生の発達段階に合ったもので、中1・中2年生達が懸命に取り組む様子に近年になく感動しました。この調子でいくと、努力すれば少年男女（高校生）の優勝も不可能ではないとの意を強く持ちました。ターゲットエイジの今後の地力向上が県剣連の課題であります。

令和2年・3年度はコロナウイルスに一端を挫かれましたが、現況が沈静化したらウイルスを乗り越えて活動し、最大の効果をあげたいと考えております。

役員はじめ高段者及び保護者の皆様には、これまで国体寄付金等でご支援いただいておりますことに心から感謝申し上げますとともに、今後とも青森県剣道発展のためにご支援下さいますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

令和4年2月1日

青森市臨時段位審査会

主催 青森県剣道連盟

日時 令和三年一月十一日(月)

会場 みちぎんドリームスタジアム

初段	受審者 26 名	合格者 26 名	100 %
二段	受審者 15 名	合格者 15 名	100 %
三段	受審者 40 名	合格者 40 名	100 %
五段	受審者 9 名	合格者 7 名	78 %



青森県剣道連盟

総会

書面会議

一 開会の辞(省略)(副会長)

二 会長挨拶

三 全日本剣道連盟表彰伝達・

青森県剣道連盟表彰(事務局長)

(一) 剣道有功章

石橋恒夫氏(八戸剣道協会 副会長)

(二) 少年剣道教育奨励賞

三沢少年剣道隊 大間小学校剣道部

四 議長選出(省略)

五 議事

(一) 全日本剣道連盟専務理事

理事長会議の報告(理事長)

(二) 庶務・事業等報告(事務局長)

(三) 各部からの報告

① 総務関係について(総務部長)

② 講習会について(講習部長)

③ 級位・段位の審査について(審査部長)

④ 広報について(広報部長)

⑤ 少年指導部から(少年指導部長)

⑥ 女子剣道について(女子部長)

⑦ 高体連から(専門委員長)

⑧ 中体連から(専門委員長)

⑨ 居合道部から(居合道部部长)

⑩ 杖道部から(杖道部部长)

(四) 令和二年度会計監査報告(監事代表)

(五) 令和二年度会計収支決算書報告(会計)

(六) 令和二年度役員寄付金団体協力金

及び国体協力金の報告(事務局次長)

(七) 長期計画に基づく予算編成について(事務局次長)

(八) 東北剣道連盟役員会議の報告(理事長)

(九) 常任理事会承認事項の審議

ア 令和三年度事業計画について(事務局長)

イ 令和三年度予算案について(会計)

ウ 役員改選(事務局長)

エ 運営部・専門委員一覧

オ 青森国民スポーツ大会準備委員会組織図

カ 国民スポーツ大会協力金枠拡大について

キ 国民スポーツ大会協力金募集について

(十) その他

六 閉会の辞(省略)(副会長)

書面会議結果概要

本書面会議は、令和二年度の後期役員会議の結果を踏まえた、「国体協力金の枠の拡大」が主たる審議内容でありました。

後期役員会議においても90%以上の高い支持率でしたが、役員各位の貴重なご提案、ご意見もあり、書面にて忌憚のない再度のご意見を伺うための書面会議でした。

結果、未回答はあるものの、78%の回答率を得、そのすべての回答が承知でありました。

これからの青森の剣道界を担う若い世代を育てるためには、2026青森国スポの成功が重要な課題となります。

役員、理事の皆様や、これまでご支援をいただいている県内高段位者の方々にも、更なるご理解・ご協力をお願い申し上げます。

● 参加中学校
男子団体 40校 女子団体 31校
男子個人 96名 女子個人 78名

● 結果（男子団体戦）
優勝 大間中学校
第二位 田名部中学校
第三位 石川中学校
第三位 弘前大学附属中学校



令和三年度
青森県中学校春季剣道選手権大会
日時 令和三年四月十七日(土)
会場 新青森総合運動公園



● 結果（女子団体戦）
優勝 南部中学校
第二位 大間中学校
第三位 沖館中学校
第三位 青森南中学校



※ 青森県剣道連盟会長祝辞
今後は剣道の目的、意義を考え、コロナに
負けずに頑張ってください。

※ 審判長祝辞
良い試合がたくさんありました。
ただ、着想や、礼儀作法の不備が見受けられ
ました。今日の経験を課題として、質の向上
を目指してください。

● 結果（女子個人戦）
優勝 山田那々良（南部中学校）
第二位 大平 萌歌（浪岡中学校）
第三位 松名瀬天絆（新城中学校）
第三位 佐々木史佳（十和田中学校）

● 結果（男子個人戦）
優勝 清水 瑛斗（大間中学校）
第二位 岡山俐心大（七戸中学校）
第三位 油井 蒼太（南部中学校）
第三位 白井 稟人（三内中学校）

令和三年度
第七十二回青森県中学校体育大会
令和三年七月十七・十八日
五所川原市民体育館

●参加中学校

男子団体 20校 女子団体 18校
男子個人 60名 女子個人 58名

●結果 (男子団体戦)

優勝 大間中学校
第二位 田名部中学校
第三位 木造中学校
第三三位 三本木中学校

●結果 (女子団体戦)

優勝 南部中学校
第二位 大間中学校
第三位 沖館中学校
第三三位 三本木附属中学校

●結果 (男子個人戦)

優勝 吹田 天伸 (大間中学校)
第二位 清水 瑛斗 (大間中学校)
第三位 宮野 溯 (大間中学校)
第三位 木村 晟 (沖館中学校)
第五位 三上 蓮 (木造中学校)
第五位 夏目麻虹陽 (青森南中学校)
第五位 畑山 龍生 (青森南中学校)
第五位 小田切 新 (八戸三中学校)

●結果 (女子個人戦)

優勝 廣谷 美桜 (大間中学校)
第二位 井田 紗幸 (青森南中学校)
第三位 吉田 紗徠 (青森西中学校)
第三三位 石田佳乃子 (三本木中学校)



第五位 山田那々良 (南部中学校)
第五位 高橋 怜愛 (沖館中学校)
第五位 千代谷望生 (西平内中学校)
第五位 佐々木史佳 (十和田中学校)
今年度も予定されていた大会や強化事業がほとんど中止となりました。(中略)
来年度も青森国スポに向けて、中体連としてターゲットエイジの強化を進めるとともに、高体連との連携を深めながら強化に努めていきたいと考えております。
ご協力をお願いいたします。

青森県中学校体育連盟剣道専門部
委員長 成田 長憲
(令和三年総務部会資料より)

青森県高体連剣道専門部

第三十三回東北高等学校剣道選抜 優勝大会

日時 令和三年二月十三日

会場 マエダアリーナ

主催 東北剣道連盟・

東北高等学校体育連盟

青森県教育委員会

共催 青森市・青森市教育委員会

後援 (公財) 青森県スポーツ協会

(公財) 青森市体育協会

主管 青森県剣道連盟

東北高等学校体育連盟剣道専門部

青森県高等学校体育連盟



● 大会出場校一覧

- 青森県 男子
 - 東奥義塾・青森西・青森北・八戸工大第一
- 青森県 女子
 - 東奥義塾・青森西・弘前実業・五所川原第一
- 秋田県 男子
 - 秋田商業・明桜・秋田・秋田南
- 秋田県 女子
 - 秋田北・秋田商業・大曲・能代
- 岩手県 男子
 - 花巻北・福岡・盛岡大一・花巻南
- 岩手県 女子
 - 盛岡白百合学園・花巻南・宮古・遠野
- 宮城県 男子
 - 仙台育英・小牛田農林・岩ヶ崎・古川
- 宮城県 女子
 - 聖ドミニコ学院・小牛田農林・利府・白石
- 福島県 男子
 - 磐城桜ヶ丘・聖光学院・白河・学法石川
- 福島県 女子
 - 郡山女子大付属・白河・聖光学院・白河旭
- 山形県 男子
 - 酒田光陵・日大山形・山形工業・鶴岡工業
- 山形県 女子
 - 山形市立商業・左沢・山形城北・寒河江
- 結果
 - 男子優勝 仙台育英高校
 - 二位 秋田商
 - 三位 明桜
 - 三位 秋田南
 - 二位 秋田北
 - 二位 秋田商
 - 三位 小牛田農林
 - 三位 左沢
 - 女子優勝
 - 三位 秋田南
 - 二位 秋田北
 - 二位 秋田商
 - 三位 小牛田農林
 - 三位 左沢

第三十三回東北高等学校剣道選抜

優勝大会を終えて

一月七日、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大によって緊急事態宣言が十都府県に発出されました。このことを受け、急遽大会では面マスクとマウスシールドの併用を義務付けることになりました。大会2週間前には市内高校クラスターの発生、他競技の東北大会の中止という状況に、無観客試合に変更せざるを得なくなりました。また、今冬の大雪の影響を受け、会場出入口の急な変更や駐車場の変更等もあり、大会関係者及び出場校には多大な御迷惑をおかけしてしまいました。それでも出場校の監督からは「無観客でもいい。選手のために大会はやってほしい」「青森県の先生方のご尽力に感謝します」等々、多くの励ましの言葉をいただきました。このことが大会実施に向けての原動力となったことは言うまでもありません。大会の日を迎えたときは選手・監督の期待に応えることができたという充実感でいっぱいでした。競技スタッフにおいては少ない人数で本当によくやってくれました。特に補助員として働いてくれた高校生達。リスクを背負いながらも会場準備から大会運営、後始末、おまけに感染防止対策まで、大会を成功させるために本当によく働いてくれました。素晴らしい高校生の姿に感動いたしました。

青森県剣道連盟審判員の先生方においては、このような状況下で高校生剣士のために労をとっていただき感謝しかありません。本当にありがとうございました。

最後になりますが、青森県剣道連盟はじめ、大会に関係する全ての方々に敬意を表すると

ともに、今後とも青森県高体連剣道専門部に対し、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

青森県高体連剣道専門部委員長

木村 秀樹

青森県高等学校春季選手権大会

令和三年五月八日(土)・九日(日)
六戸町総合体育館

● 男子団体戦 結果

一位 青森西高校 (初優勝)

二位 東奥義塾高校

三位 青森北高校

三位 八工大一高校

● 女子団体戦 結果

一位 東奥義塾高校

(十四大会連続十四回目)

二位 青森西高校

三位 弘前実業高校

三位 五所川原第一高校

● 男子個人戦 結果

一位 西田 怜音 (青森西)

二位 神 光希 (東奥義塾)

三位 工藤恵比寿 (青森北)

三位 森田 緯 (青森北)

● 女子個人戦 結果

一位 島村 咲愛 (東奥義塾)

二位 山田 夏 (東奥義塾)

三位 小保方遥香 (東奥義塾)

三位 渡部 胡桃 (東奥義塾)

青森県高等学校総合体育大会

令和三年六月五日(土)・六日(日)
十和田市総合体育センター

男子団体戦 結果

一位 東奥義塾

(二大会連続二十八回目)

二位 青森西高校

三位 青森北高校

三位 五所川原第一高校

女子団体戦 結果

一位 東奥義塾高校

(十三大会連続十四回目)

二位 青森西高校

三位 弘前実業高校

三位 五所川原第一高校

男子個人戦 結果

一位 神 光希 (東奥義塾)

二位 西田 怜音 (青森西)

三位 工藤恵比寿 (青森北)

三位 森田 緯 (青森北)

五位 南 夢翔 (八工大)

五位 大坂 樹 (東奥義塾)

五位 石鉢健太郎 (八工大)

五位 泉 大河 (青森西)

女子個人戦 結果

一位 太田 彩月 (東奥義塾)

二位 中澤 木季 (東奥義塾)

三位 湊谷 心 (青森西)

三位 山田 夏 (東奥義塾)

五位 山内 璃瑚 (青森)

五位 渡部 胡桃 (東奥義塾)

五位 角田 知郷 (五所一)

五位 北河 ひなた (東奥義塾)



【高校総体戦評】 木村 秀樹

団体決勝戦は男女とも県春季大会と同カードとなり、約四十五分の激闘の末、軍配は神選手(東奥義塾)にあがった。女子個人戦は東奥義塾同士の対決となり、延長で太田選手(東奥義塾)が県春季大会の雪辱を果たした。団体戦優勝校と男女個人一位、二位の選手は石川県金沢市で八月九日から開催されるインターハイの出場権を獲得した。インターハイでは青森県の代表として、立派な試合を見せてほしい。

男子個人戦も県春季大会と同カードとなり、約四十五分の激闘の末、軍配は神選手(東奥義塾)にあがった。女子個人戦は東奥義塾同士の対決となり、延長で太田選手(東奥義塾)が県春季大会の雪辱を果たした。団体戦優勝校と男女個人一位、二位の選手は石川県金沢市で八月九日から開催されるインターハイの出場権を獲得した。インターハイでは青森県の代表として、立派な試合を見せてほしい。

全国高等学校総合体育大会

令和三年八月九日〜十二日
石川総合スポーツ大会

男子団体戦

予選リーグ

×東奥義塾 0対3 奈良大附○

○東奥義塾 2対1 米子松陰×

※予選リーグ敗退

女子団体戦

予選リーグ

△東奥義塾 1対1 小 緑△

○東奥義塾 4対1 鳥取城北×

決勝トーナメント

○東奥義塾 2対1 星 城×

準々決勝

×東奥義塾 0対2 八代白百合○

男子個人戦

神 (東義) 二回戦敗退

西田 (青西) 一回戦敗退

女子個人戦

太田 (東義) 二回戦敗退

中澤 (東義) 一回戦敗退

ミニ国体剣道競技
令和三年八月二十一日(土)
寒河江市民体育館

● 少年男子

三位(三勝二敗)	神・大坂(東義)	泉・西田(青西)
工藤(青北)	石鉢(工大一)	
○青森県	2対2	福島県×
(代表勝ち)		
○青森県	1対0	岩手県×
×青森県	0対1	秋田県○
○青森県	1対1	山形県×
(代表勝ち)		
×青森県	1対1	宮城県○
(本数負け)		



● 少年女子

一位（五勝〇敗）				
山田・岸本・中澤・太田・二上・島村				
（東義）				
○青森県	1対1	福島県	×	
（本数勝ち）				
○青森県	3対0	山形県	×	
○青森県	4対0	岩手県	×	
○青森県	2対1	秋田県	×	
○青森県	2対0	宮城県	×	



【総括】

東奥義塾女子は全国選抜大会第三位という輝かしい成績を収め、続くインターハイでは惜しくもベスト8に泣いたが、十分誇れる成績であった。

ミニ国体においては、少年少女の成績は前評判通りであったが、少年男子の一丸となった力

の結集が好成績を収めることにつながり、一般女子を含め青森県が総合優勝に輝いたことは大変喜ばしく思っている。
青森県剣道連盟はじめ多くの県内剣道関係者の方々のご理解・ご協力のもと、皆様方に支えられながら高体連一丸となって来年度も更なる高みを目指し邁進していきたい。

(令和三年度 事業報告より)

女子部

部長 ニッ森 礼子

第十三回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

日時 令和三年七月十日(土)

場所 ジェイテクトアリーナ奈良

第十二回大会が、新型コロナウイルス感染症のため中止になり、今年度もその収束が見られず、予選が行われたものの大会が開催されるのか、選手も私も大会要項を手にするまでは大変不安でした。会場もオリンピックのため、初めて日本武道館から奈良県に変更になりました。開催にあたり、全日本剣道連盟、奈良県剣道連盟の皆様には、感染防止に御尽力され、大会を準備していただき感謝申し上げます。

第十三回大会は、樫原神宮御鎮座百三十年を記念しての大会でもあり、その由緒ある地でベスト8という結果を残すことができ、これから青森国体に向けていいスタートを切ることができました。

私たちは大会に向けて、九日に青森を出発しましたが、熱海の大雨の災害もあり、無事檀原市に着けるか心配でしたが、新幹線も遅れることなく、雨にも当たらず到着することができました。大会当日は天候にも恵まれ、開会式も各県3名の参加で簡素化しておこなわれました。選手はチームワークもよく、短時間でアツプを終えて第一試合の長野戦に望みました。4対1で勝利し、2回戦の大部分には2対1、3回戦の徳島にも2対1で勝利しました。いよいよ準々決勝は、前年度優勝の岡山県です。中堅までは、1対0でしたが、後半逆転され、1対2で敗れました。岡山県は決勝で熊本に代決で敗れ、2位に終わりました。ベスト8までの試合を振り返って見ると、初戦で一昨年のように強豪チームとの対戦もなく、ある意味で組み合わせにも恵まれていたと思います。そして先鋒の太田さんが負けない、次鋒の齋藤さん、中堅の小松さんが確実に勝数を取ってくれたので安心して見ていることができました。小松さんは準々決勝まで全勝で優秀選手賞をいただきました。ただ岡山戦は、やはり総合力で相手の方が上だと思いました。ベスト4の県は、実力的に差はなく、どの県にも優勝のチャンスはあったと思います。本県がベスト4に入賞するためには、まだ力不足を感じました。来年はさらに切磋琢磨し、ベスト4位上を目標に取り組みで行きたいと思っています。

大会前に、亀井徹先生はじめ、鹿内先生、藤田先生、今村先生、足澤先生、女子部の皆々様に稽古をしていただき、盛り上げてもらいました。心より感謝申し上げます。またコロナ禍、大会に参加させていただき、県連の皆様、関係者の方々にお礼申し上げます。



監督 二ツ森 礼子

・先鋒 太田 彩月 三段

・次鋒 齋藤 とも 三段

・国体出場、都道府県対抗女子大会出場、全国高校選抜大会三位(東奥義塾高二年)

・全国高校選抜大会団体二位、個人三位、

・全国高校選抜大会優勝(筑波大一年)

・中堅 小松 加奈 四段

・明治大女子選手権大会三位、

・全日本女子学生選手権大会優勝、

・全国高校大会個人優勝、

・全国高校選抜大会優勝(学校職員)

・副将 安田 麻衣 六段

・福岡大女子選手権大会出場、国体出場、

・都道府県対抗女子大会出場(教員)

・大将 今井 身知子 五段

・青森大女子選手権大会出場、

・全国高校大会団体出場(会社員)

● 試合結果

・一回戦

【長野】 傳田 川田 藤田 溝辺 須坂

【青森】 太田 齋藤 小松 安田 今井

・二回戦

【大分】 奥 下田代 美師寺 川浪 石橋

【青森】 太田 齋藤 小松 安田 今井

・三回戦

【徳島】 塚田メ 坪井 山本 前田 山崎

【青森】 太田 齋藤 小松 安田 今井

・準々決勝

【岡山】 上山 水川 五十嵐 小森野 稲垣

【青森】 太田 齋藤 小松 安田 今井

・一位 熊本

・二位 岡山

・三位 鹿兒島

・三位 長崎

○ 青森 準々決勝敗退 ベスト8

○ 優秀選手賞 小松 加奈



● 結果

一位 小松 加奈(高校職員)
二位 齋藤 とも(大学生)

第十四回青麗杯青森県女子剣道選手権大会
第五十九回全日本剣道選手権大会
青森県予選会
令和三年二月六日
みちぎんドリームスタジアム



● 結果

・次鋒の部 齋藤 とも(大学生)
・中堅の部 小松 加奈(高校職員)
・副将の部 安田 麻衣(中学校教員)
・大将の部 今井身知子(会社員)

第六十八回全日本都道府県対抗剣道優勝大会
青森県予選会(女子)
令和三年四月十八日
みちぎんドリームスタジアム



● 結果

・優勝 小松 加奈(高校職員)
・二位 齋藤 とも(大学生)
・三位 田澤 紗(大学生)

第十五回青麗杯青森県剣道選手権大会
第六十回全日本女子剣道選手権大会
青森県予選会
令和三年六月十三日
マエダアリーナ



● 結果

- ・一位 塚尾 凌河(日体大四年)
- ・二位 小橋 裕貴(会社員)
- ・三位 福原 壮太(東海大四年)
- ・三位 新田 樹(青森大三年)

第十四回玄妙杯青森県剣道選手権大会
第六十八回全日本剣道選手権大会
青森県予選会

令和三年二月六日(土)
みちぎんドリームスタジアム



● 結果

- ・一位 高田 達(青森刑務所)
- ・二位 逢坂 和志(青森刑務所)
- ・三位 瑞慶覧佑介(青森刑務所)

第十五回玄妙杯青森県剣道選手権大会
第六十九回全日本剣道選手権大会
青森県予選会

令和三年六月十三日(日)
マエダアリーナ

第六十八回青森県春季剣道選手権大会

令和三年五月三十日
青森市民体育館

● 団体戦

- ・優勝 学校剣道連盟

● 個人戦

- 25歳未満の部
 - ・優勝 岩淵 力(明治大学)
 - ・二位 石田 琳玖(国際武道大学)
 - ・三位 草木 壮介(千葉商科大学)
 - ・三位 福原 壮太(浦町中教員)
- 35歳未満の部
 - ・優勝 對馬 陽平(弘前実業高教員)
 - ・二位 古屋敷 尊将(青森中央高教員)
 - ・三位 洞内 貴雄(八戸北高教員)
 - ・三位 澁谷 智秀(金木高教員)
- 45歳未満の部
 - ・優勝 三上 学純(一念寺)
- 55歳未満の部
 - ・優勝 廣谷 大介(大畑中教員)
- 55歳以上の部
 - ・優勝 足澤 一成(青森大学職員)
 - ・二位 後藤 稔憲(陸上自衛隊八戸)
- 指定の部(大将)
 - ・優勝 對馬 勝治(青森県消防学校)
 - ・二位 中村 常信(黒石中教員)
 - ・三位 鹿内 修(弘前工業高教員)
- 指定の部(副将)
 - ・棄権のため該当者なし

※国民スポーツ大会の出場権を与える

● 女子の部

○ 30歳未満の部

- ・優勝 小松 加奈（高校職員）

○ 40歳未満の部

- ・優勝 安田 麻衣（中学校教員）

○ 40歳以上の部

- ・優勝 長尾由香子（浄満時）
- ・二位 石岡 民子（学校教員）
- ・三位 今井身知子（弘前剣道連盟）

※優勝者には、東北総合体育大会の出場権を与える



総務部

一 表彰

(一) 剣道有功賞受賞者

第二十七回剣道有功賞

元青森県剣道連盟理事

田中 功(七十八歳)

(二) 少年剣道教育奨励賞

大道館 紫雲会

二 剣道称号・高段位合格者

錬士・教士・範士(全国審査会)

(一) 京都審査会【五月三日・四日】

・範士 工藤一夫

・教士 石岡民子

・錬士 神慎太郎 中軸憂基

(二) 新潟審査会【八月二十一日】

・七段 笹原京四郎

(三) 東京審査会

【十一月二十三・二十四日】

・七段 後藤健二 大西俊晃

(四) 東京審査会【十二月二十三日】

・錬士 工藤高歩 馬場聡全

高谷ゆかり

赤沼達也

・教士 松村明昇 田村正人

前堀 真 越前一臣

木明裕二 古山直樹

杉山英晴 野宮直幸

三 各種大会

(一) 第十三回全日本都道府

対抗女子剣道大会

【七月十日】

・青森県ベスト8

小松加奈 優秀選手賞

(二) 全日本女子剣道選手権大会

【九月十九日】

・ベスト8

小松加奈 優秀選手賞

講習部

一 東日本伝達講習会

マエダアリーナ【四月十日】

(二) 日本剣道形・

審判法・指導法

・受講者数 52名

(二) 第五十六回剣道中央講習会

青森県伝達講習会

二 津軽地区伝達講習会

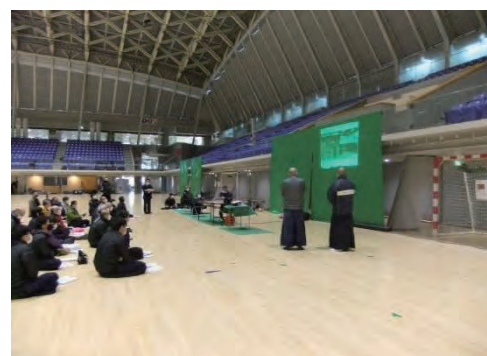
弘前海洋センター

【九月十九日】

日本剣道形・

審判法・指導法

・受講者数 33名



● 講習内容について

・今年度の東日本剣道伝達講習会は青森市と弘前市の二回の開催であったが、コロナ感染症の影響もあり、参加数が少なかった。



・指導法において、剣道具を装着しての実技は対人での稽古を避けるため、日本剣道型に時間を多くあてた。

・公認審判員審査会は昨年同様二回開催の予定であったが、すべて中止とした。

● まとめ

・今後の情勢にもよるが、来年度も中央講習会を基に、今年度同様の予定で進め、わかりやすい伝達・講習を心がけていきたい。

・今年度開催できなかった審判講習会をぜひ実施し、審判技量・知識の向上を図りたい。

審査部

一 弘前審査会 【七月十一日】

弘前海洋センター

(一) 受審者・合格者一覧

		受 審 者					合 格 者		備 考
		中学生	高校生	大学生	一般	合計	合格者数	合格率	
初段	男	14	3	0	1	18	18	100.0%	
	女	11	0	0	0	11	11	100.0%	
	計	25	3	0	1	29	29	100.0%	
二段	男	0	0	0	0	0	0		
	女	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0		
三段	男	0	8	0	0	8	8	100.0%	
	女	0	0	0	0	0	0		
	計	0	8	0	0	8	8	100.0%	

(二) 反省会で出された事項

① 運営面について

- ・初段男子、三段男子で二回目の稽古が同一校同士が当たった。

←
人数や年齢構成、欠席者によって仕方ない場合もあるが配慮する。

②

審査について

- ・垂に付ける番号が全段位ともNo1からであった。
- ・初段男子は101、女子は151、二段男子は201、など、統一してはどうか。
- ・審査員研修会において検討する。
- ・コロナ対策で切り返しを省略したが受審者が少なかったので実施してもよかったのではないか。
- ・今年度は平等性を担保するため、全審査会において切り返しを省略する。

- ・型審査の補充者を打太刀側から選んだため、事前に打ち太刀と支持のあった受審者がその場で仕太刀に変わる事となった。

- ・番号の最後に補充すること
を考慮し、仕太刀側から選ぶ
審査中に面が外れた受審者
に対し、その場で付け直させて
続行した。

- ・「止め」をかけて時計を止め、
付け直した後再開した方が
良い。

- ・転倒した際も必要に応じて
「止め」。

③ 受審者について

- ・剣道着がヨレヨレの受審者。
- ・初段の稽古がガチャガチャ
していて、ただの打ち込み
稽古になっている。
- ・稽古について事前の指示や
指導、開会式での委員長説
示に入れるなどしてはど
うか。

←
やはり指導者の問題。指導
の場面で徹底してほしい。

二 青森審査会 【八月八日】

みちぎんドリームスタジアム

(一) 受審者・合格者一覧

		受 審 者					合 格 者		備 考
		中学生	高校生	大学生	一般	合計	合格者数	合格率	
初段	男	16	0	0	0	16	16	100.0%	
	女	19	0	0	0	19	18	94.7%	型再受審(1)
	計	35	0	0	0	35	34	97.1%	型再受審(1)
二段	男	16	3	0	2	21	20	95.2%	型再受審(1)
	女	15	0	0	0	15	14	93.3%	型再受審(1)
	計	31	3	0	2	36	34	94.4%	型再受審(2)
三段	男	0	5	0	0	5	4	80.0%	
	女	0	0	0	0	0	0		
	計	0	5	0	0	5	4	80.0%	
四段	男	0	0	2	1	3	3	100.0%	
	女	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	2	1	3	3	100.0%	
五段	男	0	0	0	3	3	2	66.7%	
	女	0	0	0	2	2	1	50.0%	
	計	0	0	0	5	5	3	60.0%	

(二) 反省会で出された事項

① 運営面について

- ・名簿順の作成基準

- ・学生については、学年の
みならず年齢も見ると。
・午後の受付時間の設定に
ついて

- ・人数に応じて、急な変更
等の対応は難しい。
・コロナ対応について

- ・収束後は元に戻す。(当日
の学科審査、切り返しの実
施)

② 審査について

- ・型審査の補充者は、事前に
決めておけばどうか。

←
補充者の技量にもよること
から難しい。



三 八戸審査会 【九月五日】

南郷体育館

青森県コロナ対策により中止

四 定例審査会 【十一月十四日】

青森大学正徳館

(一) 受審者・合格者一覧

		受 審 者					合 格 者		備 考
		中学生	高校生	大学生	一般	合計	合格者数	合格率	
初段	男	65	3	0	0	68	67	98.5%	型再受審(1)
	女	41	6	0	0	47	47	100.0%	
	計	106	9	0	0	115	114	99.1%	
二段	男	50	9	0	0	59	57	96.6%	型再受審(1)
	女	38	5	0	0	43	41	95.3%	型再受審(1)
	計	88	14	0	0	102	98	96.1%	
三段	男	0	18	0	0	18	17	94.4%	学科再受審(1)
	女	0	12	0	0	12	9	75.0%	型再受審(1)
	計	0	30	0	0	30	26	86.7%	
四段	男	0	0	3	3	6	3	50.0%	学科再受審(1)、型再受審(1)
	女	0	0	0	2	2	1	50.0%	型再受審(1)
	計	0	0	3	5	8	4	50.0%	
五段	男	0	0	0	8	8	6	75.0%	型再受審(1)
	女	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	8	8	6	75.0%	

(二) 反省会で出された事項
① 運営面について
・名簿作成において、二段の男子と女子とで入替ミスがあった。

受付で発覚。細心の注意を払って名簿を作成する。
・コロナ対策で切り返し省略されている現状で基本的な事項を見るために、剣道の基本と言われている(礼法・間合・手の内・打突など)型審査から実施してはどうか。
⇒ 審査要領で実施審査合格者に型審査を課すとなっていないためできない。
・学科の事前提出には賛成だが、漢字は漢字で合格点は70点以上にするべき。
⇒ 年度途中での合格基準の変更は難しいが、次年度以降に検討する。
② 審査について
・呼出係のミスで、順番を間違えて受審してしまった。
⇒ 審査票の番号を書き換えて対応した。
・初段、二段実技において、30秒で3組6人の審査は見極めが厳しいと感じた。
⇒ 受審者数などを考慮しながら検討する。
③ 受審者について
・剣道着の袖が極端に短い受審者(高校男子2名)がいた。



個別に注意・指導を加えた。
・初段、二段の受審者で小手・面・胴の打突の際、打突部位名の発生が全部「ヤー」に聞こえる者がかなりいる。打突の際その部位名を発生するように指導するべき。
⇒ 指導段階での徹底
⇒ 講習部との連携、高体連・中体連への依頼。
(令和三年総務部会資料より)

青森県剣道道場連盟

第四十四回青森県剣道少年剣道大会
第五十五回全国道場少年剣道大会
(第四十五回 小・中学生男子の部)
全国道場少年剣道選手権大会
県予選会
(令和三年四月二十九日 青森市民体育館)

● 団体戦 低学年の部

- 出場道場名 十四団体
- ・尚道館山野辺道場(青森)
 - ・平内剣心会(平内)
 - ・柏葉少年剣士隊(七戸)
 - ・月影塾(青森)
 - ・南部少年剣士隊(南部)
 - ・秀峰館(弘前)
 - ・むつ北心館(むつ)
 - ・志道館(十和田)
 - ・五所川原剣道協会(五所川原)
 - ・護国館(弘前)
 - ・青森至道会(青森)
 - ・三宝堂武道館(三戸)
 - ・平内西武館(平内)
 - ・紫雲会(青森)

○ 結果

紫雲会 優勝
先鋒 成田 〇メ 中堅 奥山 大将 三浦 〇
× 分
先鋒 古屋敷 中堅 館山 大将 成田
尚道館山野辺道場 準優勝

● 団体戦 小学生の部

○ 出場道場名 二十四団体

- ・志道館(十和田)
- ・黒石浩徳館(黒石)
- ・錬武館(青森)
- ・石川少年剣道クラブ(弘前)
- ・南部少年剣士隊(南部)
- ・一刀塾(八戸)
- ・秀峰館(弘前)
- ・平内西武館(平内)
- ・浪岡少年剣士会(青森)
- ・むつ北心館(むつ)
- ・ひなづる剣友会(鶴田)
- ・紫雲会(青森)
- ・三沢少年剣道隊(三沢)
- ・大湊誠武会(むつ)
- ・護國館(弘前)
- ・五所川原剣道協會(五所川原)
- ・五戸修心館(五戸)
- ・青森絃武館(青森)
- ・柏葉少年剣士隊(七戸)
- ・三宝堂武道館(三戸)
- ・青森至道会(青森)
- ・板柳少年剣士会(板柳)
- ・平内剣心館(平内)
- ・尚道館山野辺道場(青森)

○ 結果

尚道館山野辺道場	優勝
先鋒 木村	中堅 藤巻
×	×
先鋒 三浦	中堅 工藤
×	×
紫雲会	準優勝
大将 舘山	大将 小鹿
分	

● 団体戦 中学生の部

○ 出場団体名 二十三団体

- ・月影塾(青森)
- ・五戸修心館(五戸)
- ・護國館(弘前)
- ・青森絃武館(青森)
- ・柏葉少年剣士隊(七戸)
- ・三沢少年剣道隊(三沢)
- ・平内西武館(平内)
- ・南部少年剣士隊(南部)
- ・青森至道会(青森)
- ・板柳少年剣友会(板柳)
- ・秀峰館(弘前)
- ・志道館(十和田)
- ・木造剣礼会(つがる)
- ・紫雲会(青森)
- ・大湊誠武会(むつ)
- ・浪岡少年剣士会(青森)
- ・一刀塾(八戸)
- ・石川少年剣道クラブ(弘前)
- ・錬武館(青森)
- ・田舎館剣友会(田舎館)
- ・黒石浩徳館(黒石)
- ・ひなづる剣友会(鶴田)
- ・尚道館山野辺道場(青森)

○ 結果

尚道館山野辺道場	優勝
先鋒 畑山	中堅 井田
×	×
先鋒 安井	中堅 竹内
×	×
秀峰館	準優勝
大将 吹田	大将 福村
下	



● 個人戦 (全国大会県予選会)

【個人戦小学生四年生以下の部】

○ 結果

- 一位 成田桜人 (尚道館山野辺道場)
- 二位 三浦妃聖愛(柴雲会)
- 三位 福原啓介(月影塾)
- 三位 奥山遥斗(柴雲会)

○ ベスト8

- ・青山 恕(柏葉)
- ・舘山美月(尚道館)
- ・佐藤杏(至道会)
- ・長根研三(至道会)

【個人戦小学生の部】

○ 結果

- 一位 竹内 蓮(秀峰館)
- 二位 長根隆三(至道館)
- 三位 小鹿夏紀(柴雲会)
- 三位 長谷川統也(秀峰館)

○ ベスト8

- ・舘山颯太(尚道館)
- ・平沢拓人(五所川原)
- ・青山 滋(柏葉)
- ・三澤諒太(柴雲会)

【個人戦中学生の部】

○ 結果

- 一位 吹田天伸(尚道館)
- 二位 太田悠翔(浪岡少年剣士会)
- 三位 福村悠人(秀峰館)
- 三位 氏家雅博(一刀塾)

○ ベスト8

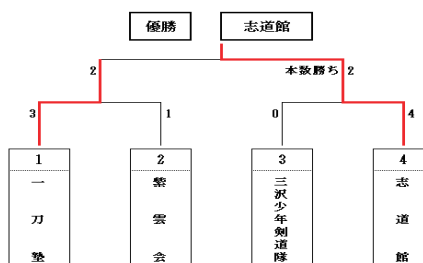
- ・入間川輝保(ひなづる)
- ・金沢時宗(柴雲会)
- ・三上 蓮(剣礼会)
- ・渡辺 (月影塾)



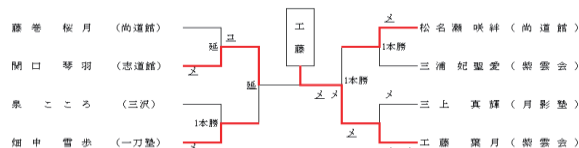
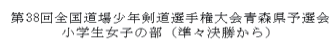
●
ベスト4

(令和三年六月二十六日)

全国道場対抗剣道大会県予選会



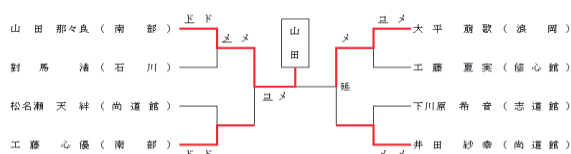
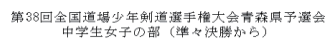
※優勝チームは9月に島根県松江市で行われる全国大会に出場



優勝	工藤 葉月	(紫 雲 会)	※全国大会出場
準優勝	関口 琴羽	(志 道 館)	
第3位	畑中 雪歩	(一 刀 塾)	
第3位	松名瀬 咲梓	(尚道館山野辺道場)	

※優勝者は8月に静岡県松江市で行われる全国大会に出場。

小学生の部



優勝	山田 那々良	(南部少年剣士隊)	※全国大会出場
準優勝	大平 莉歌	(浪岡少年剣士会)	
第3位	工藤 心優	(南部少年剣士隊)	
第3位	井田 紗幸	(尚道館山野道場)	

※優勝者は9月に松江市で行われる全国大会に出場。

中学生の部

青森県少年剣道新人錬成大会

(令和三年十一月二十三日)

青森市民体育館

【参加団体数】

- 低学年の部 10チーム
- 小学生の部 33チーム
- 中学生の部 29チーム

【参加人数】

- 低学年の部 39名
- 小学生の部 78名
- 中学生の部 72名

○ 結果 低学年の部

- 優勝 柴雲会 A(青森)
- 準優勝 護国館(弘前)
- 第三位 志道館 A(十和田)
- 第三位 三宝堂武道館(三戸)
- ベスト8
 - ・ 金木錬心館
 - ・ 平内西武館
 - ・ 志道館 B
 - ・ 秀峰館



○ 結果 小学生の部

- 優勝 秀峰館(弘前)
- 準優勝 尚道館山野辺道場(青森)
- 第三位 平内西武館(平内)
- 第三位 月影塾(青森)
- ベスト8
 - ・ 志道館
 - ・ 青森至道会
 - ・ 青森紘武館
 - ・ 三沢少年剣道隊



○ 結果 中学生の部

- 優勝 尚道館山野辺道場(青森)
- 準優勝 月影塾(青森)
- 第三位 柏葉少年剣士隊(七戸)
- 第三位 志道館 A(十和田)
- ベスト8
 - ・ 三沢少年剣道隊
 - ・ 南部少年剣士隊
 - ・ 平内西武館
 - ・ 青森至道会

少年剣道指導部



令和三年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況もありながら、昨年度は中止になった少年剣道都道府県大会の代表選考会を実施することができた。

第十六回全日本都道府県

対抗少年剣道優勝大会

青森県予選会

(令和三年六月十三日)

マエダアリーナ

○ 結果

- 優勝 竹内 蓮(秀峰館)
- 第二位 小鹿夏紀(柴雲会)
- 第三位 日山真秀(一刀塾)
- 第四位 種市竜樹(三沢少年剣道隊)
- 第五位 室谷巧信(三沢少年剣道隊)



青森県代表選手に選ばれ都道府県大会に出場するという、少年剣士の大きな目標となつていくことが、令和三年度は実施される見込みになり、大会においての成果と2026青森国スポへの長期的視野に立った強化練習を計画した。

実施に際しては、強化練習におけるクラスター発生を絶対に阻止するべく、宿泊の伴わない日帰りで少人数参集(総勢16名)、練習参加前(2週間)の体調管理及び行動履歴情報の提出、当日の体調チェックや徹底した手指消毒、練習環境の換気等、細心最大の配慮により行った。

当初は、上記以外の強化練習日程も予定していたが、夏場以降の感染拡大によりそれらの日程は全て中止としている。

その後、都道府県大会も中止という、非常に残念な結果となったが、少ない回数ではあったものの、昨年度、全く行えなかった強化練習を実施できたことにより、少年剣士たちに少なからずの成長をもたらすことができたことを、前向きにとらえていきたいと考えている。

少年剣道指導部の来年度以降の方向性としては、昨年度以前のような強化内容の継続ではなく、2026青森国スポに向かっていく県連の方向性に沿ったうえで、効率的に組み立てていきたいと考えている。

具体的には、都道府県大会は実施・参加前提のうえ、強化選手をピックアップして、感染対策等を継続し、今年度に実施した少人数、日帰り練習を強化の軸とするこ

とである。

また、これまでは、国スポの関連で指定選手の強化が中心となっていたことは否めないが、ターゲットエイジの移行に伴い、以前の事業実施の中心であった、全県の少年剣士の総体的なレベルアップにつながるような、基本の習得を中心とした幅広い学年を対

象にした、錬成会の充実等に取り組んでいきたいと考えている。

少年剣道指導部

部長 山田真太郎

(令和三年総務部会資料より)



第四十五回七戸町

防犯少年剣道大会

(令和三年七月十一日)

七戸町体育館

○結果

【低学年団体の部】

優勝 柏葉少年剣士隊
第二位 東北町少年剣道隊
第三位 志道館

【高学年団体の部】

優勝 三沢少年剣道隊
第二位 志道館
第三位 柏葉少年剣士隊

【個人戦低学年の部】

優勝 大平悠生(柏葉)
第二位 漆館保宝(藤坂)
第三位 福島新大(志道館)
第三位 沢目有希子(志道館)

【個人戦高学年の部】

優勝 長根研三(志道館)
第二位 下川原萌華(志道館)
第三位 青山 恕(柏葉)
第三位 甲地晴哉(東北)

【個人戦高学年の部】

優勝 室谷巧伸(三沢)
第二位 種市竜樹(三沢)
第三位 長根隆三(志道館)
第三位 青山 慈(柏葉)



第六十回上十三地方
青少年剣道大会

(令和三年十一月三日
六戸町総合体育センター)



○ 結果

【小学校男子の部】

- 優勝 志道館 A
 - 第二位 三沢少年剣道隊
 - 第三位 柏葉少年剣士隊
 - 第三位 志道館 B
- 【小学校女子の部】
- 優勝 三沢少年剣道隊 A
 - 第二位 志道館 A
 - 第三位 藤坂小学 A
 - 第三位 柏葉少年剣士隊

【中学校男子の部】

- 優勝 三本木中学校 A
- 第二位 三本木高校
- 第三位 附属中学校 A
- 第三位 三沢第一中学校 A
- 第三位 七戸中学校 A

【中学校女子の部】

- 優勝 三本木高校
- 附属中学校 A
- 第二位 三本木中学校 A
- 第三位 十和田中学校
- 第三位 三本木高校
- 附属中学校 B

【高等学校男子の部】

- 優勝 三本木高校 A
 - 第二位 志道館
 - 第三位 三本木高校 B
 - 第三位 三沢高校 B
- 【高等学校女子の部】
- 優勝 三本木高校 B
 - 第二位 三本木高校 A
 - 第三位 三沢高校



居合道部

令和三年度県下春季居合道大会

令和三年七月十一日(土)、三沢市武道館において、県内各地から三十名余りの剣士が参加し、標記大会が二年ぶりに開催(昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)されました。会場では、久しぶりに再会した剣友と和やかに近況報告する様子が見られました。試合は各段の選手いずれも日頃の修練の成果を十分に発揮した演武を披露しました。

結果は次の通りです。

【初段の部】

- 優勝 森岡欽吾(弘前)
- 第二位 小山和土(弘前大学)
- 第三位 西村 武(弘前大学)

【二段の部】

- 優勝 阿部将大(弘前)
- 第二位 勝亦恵美(弘前)
- 第三位 長山侑生(弘前大学)

【三・四段の部】

- 優勝 葛巻盛朗(上十三)
- 第二位 三浦修悦(八戸)

【五段の部】

優勝 田邊忠輝(上十三)

第二位 逸見 勉(上十三)

第三位 福士博之(弘前)

【六段の部】

優勝 佐藤孝雄(八戸)

第二位 乗上 功(八戸)



大会終了後、東北居合道大会・

全日本居合道大会の代表選手を決定しました。

【東北居合道大会】(岩手県)

監督 藤田幹彦(青森)

七段の部 藤田幹彦(青森)

佐藤孝雄(八戸)

六段の部

乗上 功(八戸)
逸見 勉(上十三)

五段の部 田邊忠輝(上十三)

松村明昇(上十三)

四段の部 三浦修悦(八戸)

葛巻盛朗(上十三)

【全日本居合道大会】(東京都)

監督 外崎憲治(上十三)

七段の部 藤田幹彦(青森)

六段の部 佐藤孝雄(八戸)

五段の部 逸見 勉(上十三)

また、午後には春季段位審査会(初段～三段)が行われました。

・初段合格：六名

・二段合格：三名

・三段合格：七名

四月に開催予定であった「春季講習会」は、新型コロナウイルス

感染拡大が一日でも早く収束し、今後の事業が滞りなく開催できることを願います。

【今後の予定】

○ 東北大会・全日本大会出場選手

強化稽古会(八月・九月・十月)

○ 第五十回東北居合道大会

(九月・岩手県)

○ 中央講習伝達講習会(十月)

○ 第五十六回全日本居合道大会

(十月・東京都)

○ 県下秋季居合道大会(十一月)

○ 秋季段位審査会(十一月)

※ 居合道に興味関心のある方は、事務局にご連絡ください。

お近くの道場をご紹介いたします。

(居合道部事務局・角田正美)

電話 080-1565-9900)

● 居合道中央講習会・

地区講習会・伝達講習会

(令和三年十月三日(日))

「みちぎんドリームスタジアム」において開催いたしました。参加者は二十八名でした。(新型コロナウイルスの影響により、本県からは「中央講習会・地区講習会」への参加はありませんでした。)

外崎講師による全日本剣道連盟居合の解説に則った懇切丁寧な解説と模範演武により、受講者は理合と技のポイントについて理解を深め、その後は、全員で技のポイントを確認しながら反復稽古を行い技術の向上を図りました。また、講習の最後には、全日本居合道大会出場選手が演武を披露し、気迫のこもった技の数々を受講者一同で見取り稽古を行う等、有意義な講習会となりました。

● 第五十六回全日本居合道大会

(令和三年十月九日(土))

「東京武道館」において開催されました。

結果は次の通りです。

【五段の部】

逸見 勉・一回戦敗退

【六段の部】

佐藤孝雄・一回戦敗退

【七段の部】

藤田幹彦・二回戦敗退



● 令和三年度秋季県下居合道大会
(令和三年十一月二十七日(土))
「みちぎんドリームスタジアム」に
おいて、県内各地から二十四名の
剣士が参加しました。

今年度最後の大会でもあり、
今年一年の稽古の成果を披露す
る場とともに、次年度に向けての
課題を確認する場でもあります。

試合は、各段の選手いずれも日
頃の修練の成果を十分に発揮し、
迫真の演武を披露しました。



【初段の部】

優 勝 森岡欽吾(弘前)
第二位 松橋修三(上十三)
第三位 前川原快(弘前大)

【二段の部】

優 勝 長山侑生(弘前大)
第二位 西村 武(弘前大)
第三位 渡邊有紗(上十三)

【三段の部】

優 勝 阿部将大(弘前)
第二位 佐藤政一(むつ下北)
第三位 倉本吉伸(青森)

【五段の部】

優 勝 逸見 勉(上十三)
第二位 福士博之(弘前)

午後には、秋季段位審査会
(初段～三段)が行われました。

○ 初段 合格：…七名

○ 三段 合格：…二名



● 居合道段位委託審査結果

(令和三年十一月二十七日(土))

岩手県盛岡市武道館

○ 四段合格：…一名

○ 五段合格：…二名

● あとがき

令和三年度を振り返ると「感謝」
の二文字が浮かびます。

(一) コロナ禍の中、開催した大
会や講習会は、参加者一人
一人が感染予防策を遵守し
たおかげで、滞りなく実施
することができました。

感謝申し上げます。

(二) 春季と秋季の段位審査会
では、合わせて十三名の初
段剣士が誕生しました。県
内各地区の道場において、
感染予防対策をしっかりと
講じながら、稽古の歩みを
止めなかった結果です。各
地区の取り組みに感謝申し
上げます。

(三) 初めて実施した委託審査
会では、三名の合格者が誕
生しました。委託審査を快
くご承引くださった岩手県
剣道連盟居合道部の皆様
に感謝申し上げます。

(文責：居合道部委員長・角田正美)

杖 道 部

● 杖道審査会

(令和三年十一月二十三日)
みちぎんドリームスタジアム

○ 初段受審者

・ 福岡 康子 合格
・ 中屋敷 宏子 合格
・ 森岡 欽吾 合格
・ 千葉 哲雄 合格

○ 二段受審者

・ 梅津 拓也 合格

○ 三段受審者

・ 勝亦 恵未 合格

こども 武道憲章

武道は、日本古来の武勇を尊ぶという精神を受けつぎ、長い歴史の中でつちかわれ、発展してきた伝統文化です。

武道は、礼儀正しさを身につけ、技をみがき、心身をきたえ、立派な人になるための修行の方法です。

わたしたちは、技の稽古や試合の勝ち負けだけを目的にするのではなく、武道を正しく理解して、このすばらしい日本の伝統文化を大切にしなければなりません。

これからも武道を愛し、修行を続けていくために、わたしたちが心がけなくてはならないことを「こども武道憲章」として掲げ、これを守ります。

(目的)

第1条 武道は、技をみがくことによつて心身をきたえ、強くたくましく、勇気と思いやりと正義感をもった、社会に役立つ人になることをめざします。

(稽古)

第2条 稽古をするときは、先生の教えや礼儀を守り、基本を大切にし、技だけではなく、心と体も共にきたえるよう、一所懸命にげみます。

(試合)

第3条 試合や演武では、ふだんの稽古の力を出しきつてがんばり、勝ち負けや結果だけにこだわらず、節度ある真剣な態度でのぞみます。

(道場)

第4条 道場は、技をみがき、心と身体をきたえる場所として、規則や礼儀を守り、清潔と安全を心がけます。

(仲間)

第5条 道場の仲間を大切にして、お互いに協力し、はげましあいながら、楽しく稽古し、さらに多くの仲間をつくります。

平成 16 年 9 月 16 日制定

剣 界

(令和 4 年 2 月発行)

発行者 青森県剣道連盟
会 長 増 田 知 幸
事務局 〒030-0903 青森県青森市栄町 1 丁目 7-8
事務局長 時 吉 重 雄
[TEL.090-8788-0832](tel:090-8788-0832) FAX.017-741-2170
E-mail: tokiyoshi@nittogishi.co.jp
H.P.アドレス <https://aokenren.jp>